

質感を重視した、 シンプルで動きのある モノトーンの美

静岡県・伊豆

佐々木伸佳さん



まるで、都会で異彩を放つ建造物のよ
うな潔いライン。隙のないフォルム。佐々
木さんが追い求めるのは、「ものとして
見て、きれいなもの美しいもの」。

決してそれは華美なものではない。「質
感を大事にしたので余計な装飾はせ
ず、シンプルな造形を心掛けています。
そうすると必然的に色もモノトーンにな
るんです」。

ガラスは、陶器や木工など、他の素材
と違い、直接手で触れてつくることがで
きない。どれだけ思いどおりにつくれる
かが、腕の見せ所でもある。

「もちろん、完成形のイメージは頭の
中にありますけど、模様に関しては、細
かいディテールはガラスに任せよう」と。

例えば、イタリヤのムリーニという伝
統技法。吹きガラスに色ガラスを被せて
ひっぱり細い棒状にする。それを金太郎
飴のように短くカット。断面が見えるよ
うに並べて板状にし、竿の先へのり巻き
のように巻きとり吹くと、その断面が模
様となる。通常は棒状の断面が四角にな
るようにし、隙間なく埋めて板状にする
のだが、佐々木さんの場合は断面は丸。

「その方が素材である棒をつくりやす
いのと、四角いと吹いても模様の変化が
出ないんです。見たままが模様になるだ
け。でも丸いと板状にする時、隙間があ
いて、吹くとガラスが動き勝手に模様を
つくってくれるんです」。

流動する水の泡を瞬時に切り取った
かのような模様は、ガラスの性質を生か
したものだ。ぜい肉を削ぎ落と

した鋭さとガラスを自由に遊ばせること
で、生き生きとした表情になり、それが
フォルムの美しさをより際立たせている
のかもしれない。

佐々木さんの現在の作風は、ムリーニ
やレースなどを駆使したものだが、シン
プルなガラス類も捨てがたい。美しいフォ
ルム。テーブルにガラスを置くだけで絵
になる。ガラス一つとってみても、佐々
木さんの技とセンスの良さがうかがえ
る。冷茶グラスも冷たい煎茶が入った涼
し気な様子が目に浮かぶほど。思わず、
そのグラスで喉を潤したくなる衝動にか
られる。欲するかどうか。これも美しさ
の条件の一つではないだろうか。

味人44号より転載



nobuyoshi sasaki

1980年岩手県生まれ。2001年秋田公立美
術工芸短期大学卒業。2002年秋田公立美
術工芸短期大学専攻科修了。2003年富山
ガラス工房所属。2006年TAIZOGLASS
STUDIO所属。2008年独立。現在は、伊豆
に工房を構える。



ムリーニ文様をつくる時
の素材。ガラスに白色の
ガラスを被せて引っ張り、
棒状にしたものを金太郎
飴状に切ったもの。

